

後天性口蓋欠損に口蓋キャップを長期適用した 犬と猫の2例

伊藤祐典¹⁾ 渡邊一弘^{1)†} 森 崇¹⁾ 山田茂夫²⁾ 鈴木雅也³⁾
星野有希¹⁾ 岩谷 直¹⁾ 丸尾幸嗣¹⁾

1) 岐阜大学応用生物科学部 (〒501-1193 岐阜市柳戸1-1)

2) 福井県 開業 (山田動物病院: 〒918-8116 福井市大町2-1112)

3) 愛知県 開業 (サファリ動物病院: 〒480-1131 愛知郡長久手町長湫下権田53)

(2009年6月26日受付・2009年11月16日受理)

要 約

外傷により後天性口蓋欠損を生じた猫および口腔内の悪性メラノーマに対する放射線治療、局所的化学療法により後天性口蓋欠損を生じた犬に対して、シリコン系義歯床用長期弾性裏装材を用いて口蓋キャップを作成し、長期間の使用経験を得た。外傷性口蓋欠損の猫においては口蓋欠損の外科的整復を繰り返したが治癒せず、口蓋キャップを装着した。その後2年以上の長期にわたり、口蓋キャップは使用が可能であった。口腔内腫瘍の犬においては放射線治療により生じた後天性口蓋欠損に対して口蓋キャップを装着した。その後、腫瘍の再発により複数回の口蓋キャップ作成を行い、1年以上にわたりQOLを維持できた。口蓋キャップは比較的短時間の鎮静麻酔で作成が可能であり、裂開を繰り返す口蓋欠損や積極的な治療が必要な口腔内悪性腫瘍の治療後に生じた口蓋欠損の修復に対して有用性が高く、今後もさらなる適用が望まれる。——キーワード: 後天性口蓋欠損, 口蓋キャップ, 義歯床用弾性裏装材。

----- 日獣会誌 63, 208~210 (2010)

† 連絡責任者: 渡邊一弘 (岐阜大学応用生物科学部獣医外科学研究室)

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 ☎・FAX 058-293-2952 E-mail: nabechan@gifu-u.ac.jp